

公的医療機関等2025プラン

小川赤十字病院
院長 森本義博



平成30年8月1日現在

病床数		302床	
病床種別	一般	7対1看護体制 HCU 地域包括ケア病棟 障害者病棟	164床 4床 42床 42床
	精神科	精神科病棟 (閉鎖病棟)	50床

診療科目	内科、循環器科、呼吸器科、神経内科、腎臓内科、内分泌・糖尿病内科、						
	リウマチ科、精神科、外科、消化器科、乳腺内分泌外科、整形外科、						
	脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、放射線科、耳鼻咽喉科、						
	麻酔科、リハビリテーション科、小児科(休診中)						

平成30年8月1日現在

職員数	408人
	(内訳)
	医師 30人、看護師 242人、医療系専門職 79人
	その他専門職 6人、事務職員 39人
外来患者数	596.8人/日
入院患者数	235.9人/日
病床利用率	82.4%(一般) 81.6%(精神)
平均在院日数	14.3日(一般)

小川赤十字病院の現状

人口高齢化に対応するため、老年期疾患に対して総合的に取り組んでおり、住民の医療ニーズ、環境の変化に対応し、医療を提供している。

- 高度急性期から急性期の医療の提供
- 地域包括ケア病棟を中心とした高度急性期及び急性期後の状態に対する医療の提供
- 在宅復帰後の医療の提供を区域の医療機関や介護施設等と協力しながら運営

- 1) 急性期医療及びケアミックス、精神疾患において
地域のニーズを踏まえた医療
質の高い医療の提供・円滑に適切な医療を提供
- 2) 川越比企(北)区域、北部区域と秩父区域の病院間
で役割、機能分担を一層明確化
地域医療機関との連携を強化 地域医療支援病
院取得
- 3) 老人急性期の受入体制を整える
増加が予測される認知症への対応、地域包括システ
ムの中での退院支援、在宅医療体制を強化

今後の方針 ①

比企・寄居・秩父地域の中核病院、二次救急医療機関として、大幅な増加が見込まれる高齢者の急性期医療を中心として、現状の病床と診療体制を維持していく。

2025年	302床	
病床の種類別	一般	252床
	精神	50床
病床機能別	高度急性期	4床
	急性期	164床
	回復期	42床
	慢性期	42床

今後の方針②

- ☑地域医療機関との機能分化と連携強化を図るため
地域医療支援病院の取得を目指す。
- ☑医師会及び地域の医療機関と高額な機器、開放型病床利用及び専門性の高い医療職（看護師・薬剤師・検査技師・放射線技師・管理栄養士）の様々な資格・認定を活かした**地域貢献医療、高度医療機器の共同利用等**を進める。
- ☑地域包括ケア病棟の‘ゆうこう的’な活用に向け**地域に開かれた病棟づくり**に取り組む。

今後の方針③

- ☑在宅医療に携わる医療機関・高齢者施設・サービス事業所との連携を強化については、ソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)が専門性を生かし、住民のみならず専門職間のつなぎ役、地域の相談員としての役割を担っていく。
- ☑退院後の在宅ケアに不安がないように切れ目ない支援のために看護ステーションスタッフが更なる取り組みを目指す。
- ☑合併症をもつ、精神疾患患者さんの積極的な受け入れを目指す。

今後の方針④

川越比企(北)区域、北部区域と秩父区域の中核病院として

- ☑ 救急患者の受入
- ☑ 専門性が必要とされる紹介患者の受入
- ☑ 治療後の後方支援
- ☑ 訪問看護ステーションの活用